



The Supporters Times

サポーターズタイムズ



衆議院議員 秋葉賢也 政策・活動レポート

民主党よ、マニフェストの欺瞞を謝罪し、国民に信を問え!!



いよいよ通常国会がスタートしました。総選挙の敗北から一年三カ月、私は「政治は国民のもの」という立党の主旨に立ちかえり、反省の上に立って、もう一度皆さんから信頼していただけるように新しく生まれ変わるつもりで全力で取り組んできました。この間、民主党政権は稚拙な政権運営を繰り返し、わが国の内政・外交を混乱に陥れてきました。

まず、民主党マニフェストでは、国の総予算207兆円を全面的に組み替えるということをイの一番に掲げ、その際、マニフェスト実行に必要な計16.8兆円の財源のうち9.1兆円を歳出削減によって捻出するとされていました。ところが、この総予算207兆円が、今般の23年度予算では220兆円と膨れ上がったのが実情であり、「総予算207兆円の組替え」による財源捻出という仕組みがそもそもフィクションだったことが明白となりました。

それに加え、23年度予算の段階で実現しているマニフェスト予算は、16.8兆円のうち3.6兆円に留まっています。うち歳出削減による財源確保は、子ども手当に関連する税制改正による増収分を除く2兆円台半ばです。しかし、この程度の額の削減は、わが党が政権の座にあったときに毎年行っていたものです。今や政治ショーと化した事業仕分けも、その直接の成果は22年度予算では7,000億円弱であり、23年度予算とあわせても1兆円程度です。いずれにしても9.1兆円の約1割に過ぎません。つまり何のことはない、政権交代の効果として切れたのは総予算の1割ではなく、目標額の1割に過ぎないのです。

国家公務員の人件費についても、マニフェストでその2割を削減するとされながら、22・23年度予算で合計3%程度で、全く実現の目途さえたっていません。

マニフェストの2番目の柱とされたのは子ども手当ですが、一人当たり月2万6,000円という公約は未だ果たされていません。23年度予算においては、3歳未満までの支給額を1万3,000円から7,000円上積みしていますが、とても聞くに堪えない内容です。

すなわち、3歳未満の子どもに対しては、我々が政権与党にあった時代にも中低所得者層には、一人当たり月1万円の児童手当が支給されていました。そこから子ども手当になって一見3,000円支給額が増えたようですが、家庭によっては、22年度税制改正による所得税・住民税の年少扶養控除の廃止の影響をあわせれば、逆に負担増になってしまうということが判明し、慌てて上積みしたということが今回の対応の背景なのです。何ら所得制限を設けることもなく、外国人にまで年額3兆円もの巨費を投ずるのは全くの愚策です。

こんなマッチポンプのために一部の給与所得者や成年の扶養者が増税されるということでは、とばっちりもいところでは。まさに民主党政権の無責任体質の表れです。

民主党マニフェストの3番目の柱は、月7万円の最低保障年金制度の創設を始めとする年金制度改革でした。わが党は保険料を中心とした自助と共助を尊重する制度を掲げてきましたが、民主党が主張する全額税方式による改革は未だ骨格すら示されないままです。

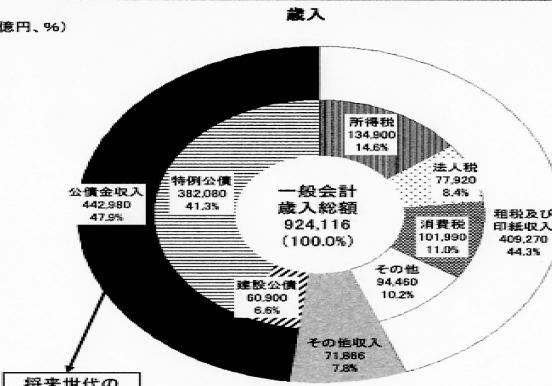
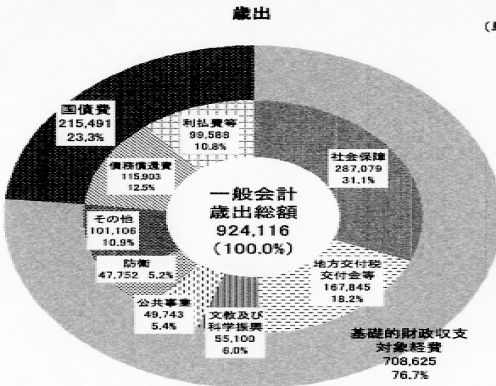
他にも、「ガソリンの暫定税率の廃止」や「高速道路の無料化」などまったく実現していないマニフェスト違反ばかりです。民主党のマニフェストがだまし絵であるとか、選挙用の毛鉤であると非難してきた与謝野大臣の従来への指摘は、極めて的を射たものでした。欺瞞のマニフェストで国民に幻想を振り撒いて政権を篡奪することが正当化されれば、わが国の民主制は瓦解します。苦しい言い訳に終始するのではなく、潔くマニフェストの過ちを認め、これを撤回し、有権者にお詫びしたうえで信を問い直すべきだと考えます。

そもそも「自民党政治の否定」と「政権交代」以外に目標は無く、一体、国民の為に何を
自由民主党副幹事長
衆議院議員
をするのか、何をしたいのか。国づくりの確固たる信念もない民主党政権に、これ以上
秋葉賢也
国家の舵取りを任せるわけにはいきません。一日も早く解散・総選挙に追い込むために、
党副幹事長として、不退転の決意で取り組んでまいります。

平成23年度一般会計予算の概要

一般会計歳出
 ・社会保障関係費(28.7兆円)、国債費(21.5兆円)、地方交付税交付金等(16.8兆円)の三大経費で全体の約7割を占める

一般会計歳入
 ・租税及び印紙収入は4割程度にとどまる
 ・残りのうち44兆円程度(47.9%)が公債金収入



将来世代の税負担

2年連続で税収を超える赤字国債の発行!

財政難を背景に年金など社会保障費の財源確保で財源あさりをしていた政府ですが、2011年度政府予算案の一般会計総額は92.4兆円。歳出は、政府の政策経費にあたる一般歳出が54.1兆円、国債の償還などに充てる国債費が21.5兆円、地方交付税が16.7兆円。これに対し、歳入は税収が40.9兆円、財政投融资特別会計の積立金や外国為替特会の余剰金など税外収入が7.1兆円、新規国債発行額が44.3兆円で、実に歳入の48%が国債頼み。**2年連続で赤字国債が税収を上回る予算案となりました!**

(単位: 億円)

	年度	国債発行額	一般会計税収
自民党政権	2007当初予算	254,320	< 534,670
	2008当初予算	253,480	< 535,540
	2009当初予算	332,940	< 461,030
民主党政権	2010当初予算	443,030	> 373,960
	2011当初予算	442,980	> 409,270

※自民党政権時代は当初予算において税収を超えて赤字国債を発行したことは、ただの1度もありません。民主党政権になって2年連続して赤字国債が税収を上回っています。

秋葉代議士から見た注目すべき問題点

①年金・医療・介護などの国の**社会保障予算が毎年1.2兆円規模で増える中**、必要な財源を税収などの安定財源で賄いきれていないことが問題です。**2011年度の社会保障予算は28.5兆円**。国が様々な政策に配分する裁量的な経費の**53.1%を占めます**。安定財源を確保できない中で、特別会計や赤字国債による社会保障費の穴埋めの額が急速に膨らむ国の財政は危機的です。**25年度に141兆円と見込まれる社会保障財源をどのように確保していくのでしょうか。**

②子ども手当に必要な+9000億円で3兆円もの予算が組まれています。全額国費で持つと言っていたのに地方負担は去年に引き続いて5500億円。地方は強く反発しています。

③2年連続で、税収が歳出の半分も賄えない事態が続いています。毎年の国債発行額は、小泉首相時代には30兆円を限度としていました。いつの間にか上限が44兆円になってしまっています。OECDの計測による債務/GDP比率も200%に近づいている中で日本の課題は財政再建です。

④公共事業の見直しでは、22年度の予算で前年比18.3%削減し、23年度は、さらに13.8%を削減しています。地域の実情が予算に反映されていません。

税制と社会保障の抜本改革について

民主党政権は6月までに税と社会保障の一体改革の政府案を示すと、野党に対して協議を呼びかけています。しかし民主党としての原案が出されない以上、協議のしようがありません。自民党は年金・医療はどうするのか明らかにしています。民主党は最低保障年金7万円の財源をどうするのか? 保険方式? 税方式? 明確な社会保障の原案を示していただきたいものです。2011年度には、国・地方の基礎的財政収支を確実に黒字化するという自民党政権時代の「骨太の方針2006」には、目標や計画がありました。民主党政権の現在では、到底、目標に及びません。明確なビジョンやプログラムを掲げて、着実に改革に取り組むこそが政権政党の役割です。財政規律をどうするのか。そしてプライマリーバランスはどうするのか明確に示していただきたいと思います。民主党による「総予算207兆円の組み替え」「ムダの削減」では結果を出せませんでした。民主党マニフェストが破綻している今こそ、マニフェストを見直して、国民に謝罪しなくてはならないのではないのでしょうか。

秋葉代議士の追求で中国人船長に賠償請求！

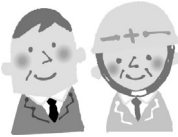
**中国人船長に損害賠償請求！約1429万円
秋葉けんや代議士の質問主意書に回答！**

尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件で、海上保安庁は2月10日、第11管区海上保安本部が中国人船長に対して、巡視船の修理費用など約1429万円の損害賠償を請求したことを明らかにしました。秋葉けんや代議士が、決算行政委員会で仙谷官房長官に強く要望してきた結果が、このように結果として現れています。通常国会でもさらに追求をしてみたいです。

中小企業の資金繰りをサポートします！

今年3月末に打ち切られる融資制度のご紹介

「景気対応緊急保証」の融資制度、「セーフティネット貸付」の金利引き下げや、国際金融不安に関連した「危機対応貸付」が3月31日で打ち切られます。これは経営基盤の弱い中小企業経営には大きな損失です。とりわけ「景気対応緊急保証」の融資制度は、30%の業種が打ち切られますので、ご注意ください！（インターネットサービス業、小売業、保険業、飲食店、宿泊業、理容、美容、生活関連サービス業）
⇒秋葉けんや代議士は新規の保証・融資を受けやすくさらに制度の充実を図り、推進していくよう関係部局に働きかけます！



**そうだったのか！
秋葉けんやの学べる法律解説**

成年扶養控除の見直しについて

高齢者虐待防止法の立案に関わった秋葉代議士は、弱い立場の人のための運用が必要だと考えています。成年者は基本的に独立して生計を立てるべき存在であること等を踏まえ、控除が縮減されます。

以下の扶養親族については、引き続き控除の対象になります。現行の成年扶養控除の適用がある納税者数（被扶養者数）は約470万人（約520万人）です。

引き続き控除の対象の方！

- 心身の障がい等の事情を抱える人
- 65歳以上の高齢者
- 学生
- 所得400万円（給与収入568万円）以下の納税者については、被扶養者の事情にかかわらず、引き続き控除を適用。
所得税は平成24年分から、住民税は平成25年度分から適用。

○心身の障がい等の事情を抱える人 90万人程度

○65歳～69歳の高齢者 20万人程度

○学生 40万人程度

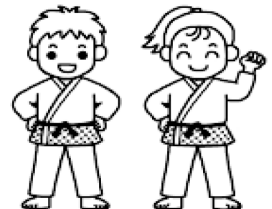
控除が存続する対象者 210万人	控除がなくなる対象者 100万人
---------------------	---------------------

納税者の所得金額（給与収入）⇒400万円（568万円）

平成24年度中学校での武道・ダンスの必修化！

平成24年度から中学校の保健体育で武道・ダンスの必修化が実施されます。平成18年に教育基本法の改正が行われ、平成20年の中学校学習指導要領の改訂により中学校における武道・ダンスの必修化が明確にされました。具体的に教育振興基本計画では、指導者の育成、施設、用具等の条件を整備することが盛り込まれています。武道については、我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導のあり方を改善するとされており、今後の具体的な現場での対応が注目されます。

秋葉代議士は、文部科学委員会に所属していたこともあり、常に子ども達の健康な身体と精神を養うことを強く要望していました。その要望が実現した形です。



国民の生活が第一ではなく、内紛が第一？

小沢系離脱願で民主党亀裂

民主党は相変わらず会派の離脱問題や内輪もめばかりして国民の生活を守るという約束を果たしていません。予算関連法案の採決で民主党内から造反すれば、衆院「3分の2」で再可決は不可能になります。予算・関連法案が不成立であれば、4割が執行不能という事態に陥りますが、税制関連法案などを成立見込みのため大きな混乱になりません。

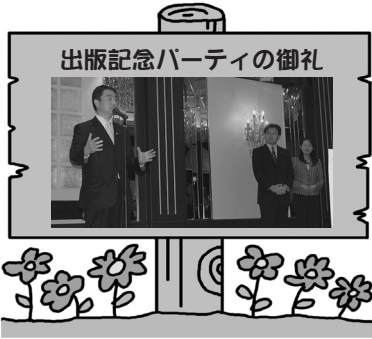
ちょっとティータイム

永田町界隈で、じゃれ歌がはやっています。世相をよく表現していますね。同じ直人でも違いますねえ。

伊達直人と菅直人のガイドライン

伊達直人	菅直人
思いやり	思いつき
プレゼントを持参する	プレゼンで自賛する
贈り物	先送り
イロイロする	イライラする
言わずにおいてくる	やらずに置いたまま
無言で立ち去る	多言で居直る
正体を語らない	詳細を語れない
ヒーロー	非道
全国に現れる	全国で笑われる
名を出さずに行動	口だけ出して行動しない

ハガキや切手を、是非、カンパ下さい！



盟友の村井知事にご挨拶をいただきました。

師の教えをかみしめて
 秋葉賢也 澤澤ま政 渡辺 況師の喝を通信した。「松下幸之助の『何をどう生きるか』と怒られる」

○「自らの秋葉也衆議議員比例東北が熟した松下幸之助『最後の言葉』の出版記念パーティが16日、仙台市内であった。松下政経塾出身で、故松下氏から直接教えを受けた秋葉賢也が、同党の熊谷天彦議員（高橋聖子区）は「松下氏の言葉の活動の支え」と語った。

▲ 河北新報二〇一一年二月十七日

タウンミーティングのお知らせ (国政報告会)

- 若林区** 日時：3月25日(金) 19時～
場所：若林区文化センター
- 泉区** 日時：3月26日(土) 19時～
場所：イズミティ 21
- 宮城野区** 日時：3月28日(月) 19時～
場所：新田東総合運動会場会議室

※ぜひお近くの会場にお越し下さい！

TOPICS

仙台発・大人の情報誌りらく2月号に秋葉代議士の記事が掲載されています。全国の書店で好評発売中です！



恩師・松下幸之助から学んだ大切なことを伝えたい

最後の直弟子の一人 秋葉賢也が著す『松下幸之助「最後の言葉」』



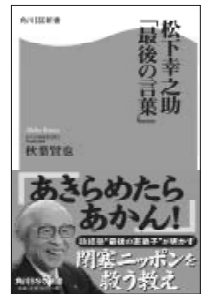
秋葉賢也(アキバケンヤ)
 松下政経塾第9期生。衆議院議員。1962年宮城県生まれ。中央大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士課程前期修了。宮城県議会議員(1995年より3期10年)を経て、2005年に自由民主党から出馬し初当選。現在3期目。元総務大臣政務官。党副幹事長やシャドウ・キャビネットで外務副大臣などを務める。

松下幸之助が亡くなって20年、松下政経塾ができて30年。今なお松下自身や、彼の教えを受けた人によって多くの本が出版されている。秋葉氏は政経塾で松下から直接指導を受けることができた最後の世代である第9期生。講義の折りに聞いた松下の生の言葉や、秋葉氏が受けた印象を中心に、他の本には載っていない独特のエピソードをまとめた。

例えば有名な戦国武将のホトトギスの俳句は松下ならばどのタイプか、という話や、松下が当時87歳ぐらいのとき、講義の朝に目を赤くしてきて「日本の将来を考

える」と最近夜眠れない」と言ったり、どいづくになっても常に社会のことを考えていた話など、初めて明かされることばかりだ。

政経塾の最後の直弟子が、恩師から学んだ「厳しい社会を生き抜くための言葉」などが詰まった冊は、志をしっかり持って諦めないことの大切さを教えてくれる。ビジネスマンのみならず、若者や主婦の方も、ぜひこの本を読んで共有してほしいとのこと。混迷する現代を生きている私たちにとって、自信や励みになる言葉が見つかることだろう。



秋葉賢也著
 松下幸之助「最後の言葉」
 角川SSC新書
 760円(税別)

秋葉けんやならこうする！ 批判ではなく具体的提案を！

秋葉代議士は、県議時代から議員立法に取り組んできました。議員立法に熱意をもってこれからも果敢に挑戦していきます。現在、自民党の石破茂政調会長が進めている「1議員1法案」は秋葉けんや代議士が、進言してきた取り組みの一つです。これまで全議員合わせて、550本近くの提案が集まりました。今後は、部会で取り上げるものを精査し、今通常国会に提出していくことを目指しています。

～ 秋葉けんやの5つの政策！～

- ①サンセット法案**：法律や国の行政組織・事務・事業等（特に審議会等、補助金、租税特別措置の簡素合理化）について、廃止期限を設け、又は定期的にその存廃を検討することを義務付けることによって、見直し作業を必然化させ、行政のムダをなくす。
- ②首長の多選禁止**：知事と政令指定都市の首長連続3期を超えて在任を禁止する。それぞれの自治体の判断で必要に応じて条例で多選禁止が規定できる。
- ③議員定数の削減**：衆議院小選挙区300議席「小選挙区」のみ。参議院議員は47都道府県各1名ずつ47議席。
- ④地方分権の推進と地方議会の権限強化** (1)議会在が議決した意見書の回答を義務づける (2)議員は、議員提出議案を提出する際に議員定数の12分の1以上の賛成者が必要とされるが、これを1人からできることとする。(3)臨時会、定例会ともに議長が議会を招集することができる。)
- ⑤散髪設備を持たない店舗の急増に対して店舗への指導を十分に行い、公衆衛生の向上を実現する。**